

Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月のおすすめは、LANに直結して電子メールをやり取りできる「インターネットファックス」の「FreePort i66」、40以上の検索エンジンにまとめてアクセスできる「WebSeeker」、日本でもようやく登場のインターネットアクセス制限ソフト「Cyber Patrol」、電子メールが受信できるポケベル「インフォネクストD-11」、7か国で使えるモデムとLANの共用カード「DFL3410」、ポップアップして訳語を確認できる翻訳ソフト「ROBOWORD」だ。

今月のラインナップ

インターネットでFAX通信ができる

FreePort i66

[発売元] 松下電送株式会社



多数の検索エンジンに一括アクセスできる

WebSeeker

[発売元] エー・アイ・ソフト株式会社



子供に見せたくないサイトへのアクセスを制限する

Cyber Patrol

[発売元] アスキーネット株式会社



電子メールが受信できるポケベル

インフォネクストD-11

[発売元] NTT移動通信網株式会社



世界で使えるモデムとLANの共用カード

DFL3410

[発売元] TDK株式会社



訳語をポップアップして表示する翻訳ソフト

ROBOWORD

[発売元] 有限会社サン・オーク



付録のCD-ROMに収録

このコーナーの見方



市販の
ハードウェア製品



市販の
ソフトウェア製品



シェアウェアの
ソフトウェア



フリーウェアの
ソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

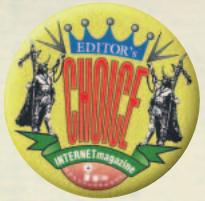


付属品



ファイルサイズ/
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



電子メールの送受信ができるFAX

フリーポート アイ

FreePort i66



748,000円



松下電送株式会社

ここがスゴイ!

- ① インターネットの電子メールを送受信できる
- ② 将来はFAXサーバーにもなる予定

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



松下電送株式会社から新しく発売されたFAX「FreePort i66」は、電子メールを送受信できるFAXだ。通常のFAXのように電話回線をつなぐモジュラージャックに加え、10Base-Tのポートを備えたユニットを本体に接続し、LANに直結して使用する。このような製品は世界でも初めてで、新しい端末として注目される。

▶ イーサネットポートが付いたFAX

FreePort i66の本体には、PC/AT互換機に付いているような9ピンのRS-232Cコネクタが付いている。ここからケーブルでLANのユニットをつなぐ。ユニットには10Base-Tのコネクタがあり、イーサネットケーブルをつないでネットワークとのやり取りをする。パソコンと同じようにIPアドレスを割り当て、インターネット接続に必要な情報を登録して使う。

▶ 電子メールを送受信できるFAX

FreePort i66を使えば、インターネットの電子メールを送受信できる。FAXから送信する場合は、文書をTIFF形式の画像データとして読み取り、電子メールに添付して送信する。添付ファイル形式はMIMEだ。送信する際の操作は通常のFAXを電話回線で送る場合とほとんど変わらない。送り先として電話番号ではなく、電子メールアドレスを入力するだけである。パソコンからFAXに送信する際も、通常の電子メールの送信と変わらない。メールアドレスを指定して送れば、FAXが受け取り、テキストファイルであれば内蔵のフォントで印刷する。

画像ファイルをFreePort i66に送信する場合は、TIFFファイルをメールに添付して送る。ただし、TIFFにはさまざまな圧縮形式があり、FreePort i66が受け取れるのはG3FAXで使われる形式だけだ。パソコンでこの形式を作成できるアプリケーションはほとんどない。開発元の松下電送株式会社によると、BMPなどパソコンでよく使われる画像形式や、マイクロソフトのワードやエクセルのファイルを、FreePort i66が受け取れる形式に変換するソフトを開発中とのことだ。

また、FreePort i66同士の画像の送受信もインターネット経由でできるので、FAXにかかる電話料金がからなくなるわけだ。

▶ インターネットから一般公衆回線への送信

松下電送株式会社によると、FreePort i66は、いずれパソコンからインターネット経由で送信したデータを

● FreePort i66本体。見た目はFAXと変わらない。



受け取ったFreePort i66が、電話をかけて通常のFAXに送信できるようにする予定だ。これを使えばインターネットからすべてのFAXに送信できるようになる。

試用レポート

▶ 使い勝手はふつうのFAXと同じ

FreePort i66をネットワークに接続するには、パソコンをインターネットに接続するときと設定するのと同じように、ネットワークの設定をする必要がある。編集部では設定を手作業でやってみたのだが、多少戸惑ったこともあった。ただ、この機種は個人で使うには高価なものなので、設定はメーカーや販売代理店のサポートスタッフがやってくれるケースがほとんどだと思われるので心配はないだろう。

電子メールを送信する際の使い勝手はふつうのFAXと同じだ。原稿をセットして「インターネット」ボタンを押し、アルファベットが刻印されたキーボードを押して送付先のメールアドレスを入力し、スタートボタンを押す。通常のFAXのように読み取った原稿に「済」というスタンプを押す機能もあるし、ヘッダーも付けられる。また、いちいちキーボードを押すのが面倒な人のために、送り先を60件ほど登録できる。

インターネットにつながったパソコンとスキャナー、プリンターがあれば、FreePort i66と同じことはできる。ただ、それにはある程度のパソコンの知識が必要になる。パソコンの知識が何もない人でも操作できる簡単さが、FreePort i66の最大のメリットだろう。また、たとえば会社で使う際に、本社と支社とにそれぞれFreePort i66があれば、FAXにかかる電話料金はまったくかからなくなる。次世代まで見越した画期的な製品として今後の熟成を期待したい。(編集部)

● 本体とLANのユニットはRS-232Cケーブルでつなぐ。



FreePort i66



松下電送株式会社



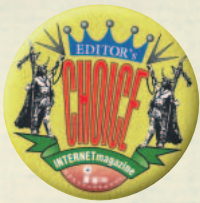
748,000円



03-3491-9191



<http://media.mei.co.jp/mgcs/product/ifax/index.html>



多数の検索エンジンに一括アクセスできる

ウェブシーカー

WebSeeker



12,800円



イー・アイ・ソフト株式会社

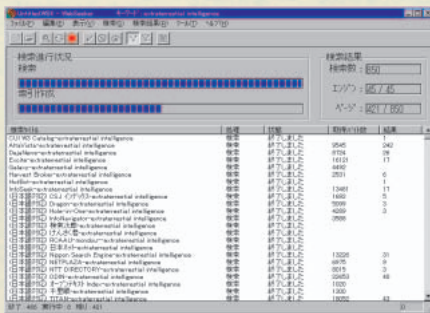


ここがスゴイ!

- ① 多数の検索エンジンを同時アクセスして検索結果を絞り込む
- ② スケジュール機能で指定時間に検索ができる。

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① 検索しているところ。各サイトに次々にアクセスしていく。

インターネットで何か探そうと思ったら、検索エンジンを使うことになる。しかし、検索対象によってはこれですぐ見つかるのだが、用語によっては、あまりに多くの結果が返ってきて、端から見ていくだけで大変なことになる。また、検索エンジンにも種類があって、登録制で分類中心のものもあれば、ロボットを使って片端から情報を集めて回っているところもある。それで、1つの検索エンジンでは見つけられないこともあり、結局いくつかの検索エンジンを回るなどしなければならぬ。WebSeekerは検索エンジンのアクセスを自動で行ってくれるソフトで、複数エンジンの検索も簡単にできるようになる。

なお、今回は、発売前の評価版を使ってのレポートであり、実際の製品とは異なる可能性があることをあらかじめおことわりしておく。

▶ 各種の検索エンジンを自動アクセス

WebSeekerには、各種の検索エンジンでの検索方法が組み込まれており、登録された複数の検索エンジン(評価版では国内外の45の検索エンジンが登録されていた)に対し、検索を自動的に行う。それぞれの結果に対して、重複を取り除く、検索結果のページの状態を調べる(インターネットではしばしばサーバーが移動したり、休止したりするなどして無効な検索結果が得られることがある)などして最終結果を得ようになっている。

個々の検索エンジンにそれぞれアクセスしてみると、結果の「表示」に意外と時間がかかるので、45も検索エンジンにアクセスすると膨大な時間がかかるような気がする。これは、通常のブラウザがHTMLを受け取って解釈し、さらにインライングラフィックスなどを受信し、表示を行っているためだ。しかし、HTMLだけの受信であれば、そんなに時間はかからない。WebSeekerはこの点をうまく利用している。

▶ スケジュール機能もある

WebSeekerでの検索はキーワードをANDまたはORの条件で結び付ける形で複数のキーワードを指定して行う(単独キーワードでももちろん可能)。また、検索後の動作として「重複を除外」(パワーレベル1)、「重複を除外し、実在しないサイトを除外」(パワーレベル2)、「(パワーレベル1、2に加えて)該当ページを

取得し、結果をさらに絞り込んで検索できるようにする」(パワーレベル3)の3つが指定できる。

インターネットに接続したままであれば、パワーレベル2で結果リストを使って次々とページを見ていけばよい。結果リストは、そこからページを表示させるとすでに見たかどうかのマークが付くので、その後の検索もしやすい。

ダイアルアップ接続などでは接続時間が気になるが、その場合、夜中に検索するようにしてパワーレベル3を指定しておく、該当ページ(HTMLのみ)をダウンロードしてくれるので、あとはローカルでじっくりと探せる。

実際の検索では、デフォルトで8つのサイトを同時アクセスする。複数の検索エンジンやページアクセスが同時に行われるため、反応の遅いページやアクセスできないページがあっても、全体のアクセスが止まってしまうことはない(もちろん個別にタイムアウトによるアクセス中断が行われる)。

自動接続ではウィンドウズ95のダイアルアップネットワークのエントリが利用され、「毎日」「平日」「指定曜日」の3つの実行パターンを使って指定時刻に自動的に検索を行う(検索条件などはあらかじめ指定しておく)。

また、検索エンジンなどの仕様変更や新しい検索エンジンへの対応などは、プログラムの自動アップデート機能を利用する。インターネットにアクセスするプログラムであることを利用し、WebSeekerは、自分自身の自動アップデート機能を持っている。

▶ 検索エンジンの使い方を知らなくてもOK

実際に検索してみたが、単一の条件指定で、複数の検索エンジンの結果を1つの書式で見られるというのが意外に便利に感じた。検索エンジンによっては、URLのみ、解説付きなどさまざまな書式で表示され、次のページに進むインターフェイスもそれぞれである。また、検索方法も単にスペースで単語を区切るとOR検索になるとか、ダブルクォートを使うなどさまざまで、検索エンジンに慣れないうちは、なかなか効率的な検索ができないものだ。WebSeekerではこのソフトの指定の仕方だけ覚えればよく、個々の検索エンジンの使い方を覚える必要がないのである。

検索エンジンをよく使う人は、導入を検討してもいいだろう。(塩田紳二)



② 結果はHTML化されるので、WWWブラウザで閲覧できる。

WebSeeker



イー・アイ・ソフト株式会社



12,800円



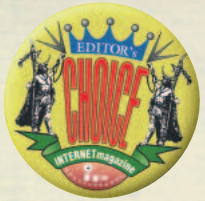
2.0



03-3376-7122



http://www.aisoft.co.jp/aisoft/japanese/products/seeker/seeker.htm



子供に見せたくないサイトへのアクセスを制限する

サイバーパトロール

Cyber Patrol

ここがスゴイ!

- 1 WWWブラウザだけでなく、マシンのインターネットへのアクセスを総合的に制御できる
- 2 アンインストールも勝手にできないようになっている

学校や家庭など、子供が簡単にアクセスできる環境で、インターネットを使う場合に気になるのが、「子供に見せたくない」Webサイトである。いわゆるエッチものもあるが、中には、死体の写真を集めたページなど結構ショッキングなものもある。表現の自由といった問題もあり、内容の規制は好ましくないが、自衛策として、そのようなページにアクセスできないようにするという方法もある。このCyber Patrolはそうした場合に利用するソフトウェアである。

▶ インターネットアクセスをトータル制御

このCyber Patrolは、単に好ましくない(と思われる)ページを表示させないという機能だけでなく、インストールしたマシンからのインターネットへのアクセスをトータルに制限できるソフトウェアだ。パスワードを付けて管理することで、プログラム改変や許可のないアンインストールが行われるとシステム自体をロックしてしまう。つまり、インストールされたマシンは、もう管理者の許可なしには制限を解除することができない(OSを再インストールされてしまえばおしまいで済む)。

このソフトの基本的な考え方としては、学生や児童への影響を考え、問題のある(と思われる)サイトへのアクセスを制限するという「外からの防衛」という面と、インターネットを使って、情報を外へ流出させてしまうことを防ぐという「内側から外部への障壁」という2つの面がある。後者には、従業員が秘密情報をインターネットを通じて送信してしまうことを防ぐといった使い方や、許可されていない時間帯のインターネットへの接続を禁止するという使い方がある。

▶ 監視するのは4種類

このCyber Patrolが監視するのは、「WWW、FTPなどによるサーバーへのアクセス」「ネットニュースの購読」「キー入力文字列」「起動するアプリケーション」の4つであり、これを曜日と指定時間のスケジュールに従って制限することが可能だ。

WWWなどのサイトの制限は、オリジナルの開発元、Microsystems Softwareの運営するサーバーからリストとして取得できるほか、PICSという評価システムを使ったページ制限もできる。PICSとは、ページの作成者がHTMLに「どれくらい見せたくないか」という目安(「レベル」と呼ばれる)を情報として書いておき、WWWブラウザやアクセス制限ソフトの側で表示を

するか判断させる方式である。インターネットエクスプローラにも組み込まれている。

キー入力文字列の監視は、IRCやチャットでの言葉の使用を制限するものだが、常にキー入力が監視されるので、ここで規制した単語は、ローカルでのアプリケーションでも利用できなくなる。これは、個人情報を不正に送信させない、差別的な単語を使わないという規制のためである。アプリケーションの監視は、指定したアプリケーションが起動できないようにするものだ。これはゲームプログラムの使用を禁止する場合などに使うものだ。

▶ 電話料金の抑止にも使える

このソフトは必要のある人間だけが使うソフトであり、必要もなくただ入れておいてもメリットもない。ソフトとしてみると、アンインストール対策までが行われているなど、ソフトウェアの理論的な完成度は高いと思われる。ただし、どこまでの攻撃に耐えられるかという点は検証できず現時点では不明である。たとえば、パスワードはどの程度厳重にガードされているだろうか、レジストリーの完全な置き換えなどに対処できるのかといった、実際面の検証は行えなかった。また、ユーザーインターフェイスは専門用語(CyberYES、RSACiなど)が多く、全体を理解するのに少し時間がかかった。説明書の記述が悪いわけではないが、白黒で図版がほとんどなく、読みにくいのが気になった。

単純なページの表示抑止であれば、PICSを組み込んだインターネットエクスプローラ(ネットスケープナビゲーターも次期バージョンで対応予定)などで十分達成できるが、それ以上の制限をしたい場合には必要となるソフトであろう。インターネットにハマルと時間を忘れることがあるが、たとえば子供に利用させる場合、このようなソフトを併用することで、利用時間を制限するなどして電話料金を抑止することなどにも使えるだろう。(塩田紳二)

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

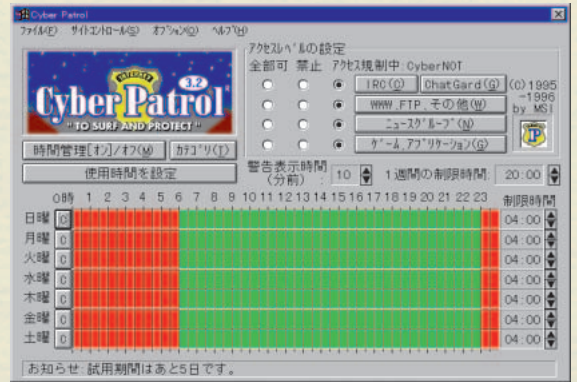
おすすめ度



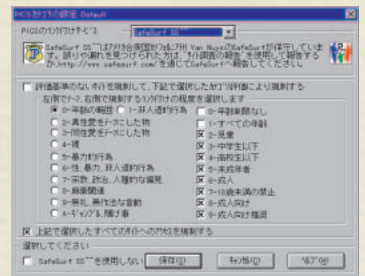
5,400円



アスキーネット株式会社



①メイン画面。時間帯によるアクセス制限が一目で分かる。



②制限内容は各カテゴリーに分かれており、細かな設定ができる。

Cyber Patrol



アスキーネット株式会社



6,800円



3.2



0120-318-119



http://cyber.ascinet.or.jp/



電子メールが受信できるポケットベル

インフォネクストD-11

17,400円
(月々の使用料含まず)

NTT移動通信網株式会社



ここがスゴイ!

- 1 インターネットから送信された電子メールを受信して読める
- 2 ホームページから送信された電子メールも読める
- 3 自分宛てにきたメールを転送して読める

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



① 外観はふつうのポケットベルと変わらない。

② ひらがなやカタカナは半角、漢字は全角で表示される。



NTT移動通信網株式会社（NTTドコモ）の「インフォネクスト」シリーズは、インターネットを使って送信された電子メールを受信できるポケットベルだ。ポケットベルは数年前からメッセージを電話で送れるようになっているが、発信する側は電話機のプッシュホン番号の組み合わせで送るようになっている。しかし、どのような組み合わせでどのような文字を送信できるのかを覚えるのはなかなか難しい。キーボードが使えるパソコンからメッセージを送付できるなら、大変便利だろう。

▶ 電子メールからメッセージを送信
インフォネクストに電子メールを送る方法は簡単だ。まず、電子メールの本文に「PBNO=」と書き、その後にポケットベルの番号を書く。次に「MSG=」と入力し、その後に伝えたいメッセージ内容を書く。この内容をNTTドコモの特定のメールアドレスに送信すれば、ポケットベルにメッセージが届く。メッセージ内容は漢字混じりでも大丈夫だ。送れるメッセージの文字数には制限がある。数字や英字などの半角文字は1バイト、漢字などの全角文字は2バイトとして計算し、最長100バイトまで送信可能だ。送信した後、メッセージが送信された旨のメールが発信元に返ってくるようになっている。

▶ ホームページからも送信できる
インフォネクストへのメッセージは、ホームページからも送信できる。NTTドコモのホームページにこのページがあり、ここに相手先のポケットベル番号とメッセージ内容を入力し、「送信」ボタンを押すだけでメッセージが送られる。電子メールの場合、移動先から送信するにはノートパソコンを持ち歩かなければならぬが、ホームページから送信できるのなら、インターネットカフェなどからも送信できて便利だ。

▶ 自分のメールボックスから転送もできる
もしUNIXのシェルアカウントが使えるプロバイダーなら、自分のメールボックスからメールを転送するよ

うにも設定できる。この場合、UNIXのメールサーバーで「forward」と設定することによって、到着したメールをポケットベルに転送するように設定する。また、UNIXを操作できない人のために、NTTドコモでは、パソコンから簡単に設定するフリーソフトウェアを提供している。ウィンドウズ用とマッキントッシュ用が用意されている。転送内容として表題を送るか本文を送るか、発信者のメールアドレスを送信するかしないかが選択できる。ただし、受信したメッセージの記録件数は最大80件なので、1日に大量のメールを受け取る人は別のアカウントを用意したほうがいい。

試用レポート

▶ 相手側が受け取ったかどうかは分からない
インフォネクストのインターネットメールの受け取りサービスを利用できる端末には「インフォネクストD-11」と「同D-12」がある。今回はインフォネクストD-11をお借りした。D-11とD-12はインターネットメール受け取りの機能のために、従来の電話から送信されたメッセージを受け取る機能を犠牲にはしていない。電子メールを受け取る必要がない人でも、漢字を表示できるディスプレイを装備した、高機能のポケットベルとして利用価値がある。

実際に電子メールとホームページからメッセージを何度か送信してみたが、送信ボタンを押してから実際にポケットベルが鳴るまで、約1分くらいだ。この程度のタイムラグなら十分実用になる。

電子メールでメッセージを送信すると、しばらくして「送信しました」という確認のメールが来る。ではポケットベルの電源を切ったままでメッセージを送信してみたらどうなるのかと思い、試してみたが、それでも通常のとおりに「送信しました」という旨のメールが届いた。NTTドコモによると、届かないメールを蓄積するようになっていないとのことだ。ポケットベルのシステム上仕方がないのかもしれないが、相手側のポケットベルが電源を切っている場合はその旨を知らせてくれて、もしメールを受け取れなかった場合は蓄積してくれるようなシステムにするとさらに便利だろう。

携帯電話やPHSに比べて、圧倒的に着信可能なエリアが広いのがポケットベルの魅力である。ポケットベルとインターネットがつながることで、また新たな可能性が広がるのが期待される。

(編集部)

インフォネクストD-11

NTT移動通信網株式会社

17,800円

0120-377-360

http://www.nttdocomo.co.jp/prod/pcbell/nex_inup.html



世界で使えるモデムとLANの共用カード

ディーエフエル3410

DFL3410



48,800円



TDK株式会社

ここがスゴイ!

- ① 7か国に対応したモデム
- ② LANとの共用カード

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



PCカード型モデムでは定評のあるTDKから新しく発売されたDFL3410は、モデムとLANの共用カードだ。モデムは現在もっとも高速な33.6Kbpsに対応しており、世界各国の仕様に切り替えられる。これにさらに10MbpsでLANに接続できる機能が付属している。ノートパソコンのネットワークへの接続にはこれ1枚でOKという便利なカードだ。

▶ モデムが世界各国の仕様に対応

モデムとLANの共用カードは米国のXircom社（日本ではトランステック株式会社が発売）やMegahertz社（日本ではインテグラン株式会社が発売）が以前から発売していたが、モデムが日本向けに仕様変更されており、海外での使用時に問題がある場合が少なくなかった。編集部でも、日本で発売されたモデムを海外で使ってしまったつながらなかったり、つながっても14400bpsでしか通信できなかったりといった経験がある。TDKでは以前からこの点に着目し、海外でも使用できるモデムを発売していた。今回発売したDFL3410もこの機能を持っている。日本、アメリカ、カナダ、フランス、オランダ、スウェーデン、イギリスの7か国の電話回線に対応している。これらの国に海外出張をする機会が多い人には実に便利なモデムだ。

▶ LANに接続できる

DFL3410には、各国への対応に加え、LANに接続する機能も併せて持っている。ネットワークへの接続は、モデムを使ったりモトアクセスも、LANへの接続も、これ1枚でOKだ。両方の環境を使い分けている人は、カードを抜き差しせずに済むので便利だ。LANの部分は、10Base-Tのイーサネットが差せる。10Base-2や10Base-5は接続できないので注意しよう。また、このカードはウィンドウズ95を搭載したパソコン用だけで、マッキントッシュには対応していない。ウィンドウズNT用のドライバーは作成中とのことだ。

試用レポート

▶ 分かりやすいマニュアル

モデムとLANという2つの機能を備えているので、セットアップは通常のモデムカードより少々複雑に感じるかもしれない。ウィンドウズ95でLANカードをセットアップする場合は、ネットワークの設定に関する知識まで必要になるからだ。



① 付属の仕様変更アプリケーション。現在の仕様が国旗で表示される。



② モデムとLANの2つのケーブルが付く。

LANの設定をした人ならご存じかもしれないが、以前にモデムやLAN環境を設定したことがあるかどうかで、新たにLANカードのドライバーをインストールするときに表示されるメッセージも違う。ただ、添付されるマニュアルは大変親切に書かれているので、初心者でもそれほど心配はないだろう。表示画面を掲載しているので実際にどのような画面が見えるのかが分かるし、「以前にモデムを組み込んだことがある人」「以前にLANを組み込んだことがある人」「両方組み込んだことがある人」「両方組み込んだことのない人」と4種類のパターンを提示し、それぞれのページから読みやすいかが示されている。

▶ 仕様を変えるには専用ソフトを使用

使う国の電話回線の仕様に合わせる場合は、付属のソフトウェア「Country Selector」を使う。このソフトウェアも、セットアップファイルを起動させるだけで簡単にインストールできる。使い方もシンプルで、使いたい国をダイアログから選んで、「OK」ボタンを押すだけだ。国名を変えるとそれにつれて国旗のマークも変わるようになっている。

価格も、モデムとLANの共用カードの中では低価格と言える。TDKは以前からモデムカードとLANカードの双方の分野で人気の商品を持っており、信頼性も高い。モデムとLANカードを一度に欲しい人、PCカードのスロットを節約したい人におすすめだ。（編集部）

DFL3410



TDK株式会社



48,800円



0120-650-660



ウィンドウズ95が動作し、PCMCIAタイプ スロットを搭載したパソコン



http://www.tdk.co.jp/taah01/aah13000.htm



訳した結果をポップアップして表示する翻訳ソフト

ロボワード

ROBOWORD



12,800円



有限会社サン・オーク

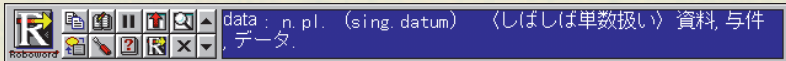


ここがスゴイ!

- ① 訳語をポップアップして表示するので目線を動かさず楽に確認できる
- ② デスクトップ上の文字なら何でも翻訳OK

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① デスクトップのどの部分にカーソルを持っていても翻訳される。



② ポップアップの画面。テキストの部分にカーソルを動かすだけで結果が表示される。

翻訳ソフトはインターネット上の英語で書かれたWWWサイトなどを読むには便利なソフトだ。インターネットの普及により、翻訳ソフトの需要が増え、各社から多くの翻訳ソフトが登場している。今回紹介する「ROBOWORD」も翻訳ソフトだが、今までにない画期的なアイデアが盛り込まれている。

▶ 訳した言葉をポップアップして表示

ROBOWORDの画期的な点は、知りたい言葉のすぐそばに、翻訳された言葉がポップアップして表示されることだ。翻訳ソフトは文書をすべて翻訳して日本語の文章にするものが多いが、完全に正しい日本語として表示される例は少ない。どこか不自然な日本語になっていたり、おかしい意味に取り違えられたりすることがよくある。また、すべて日本語に訳されてしまうから、どの単語がどのような意味に訳されているかを確認するのが難しい。

ROBOWORDは文章をすべて一括して翻訳するのではなく、単語ごとに翻訳する。英語の文法を知っている人なら、訳すのに苦労するのは単語の意味なので、何も一文まるごと訳すことはない。知らない単語の意味がすぐに出てくればよいわけだ。

しかも、言葉を指定してカット・アンド・ペーストするなどの煩雑な操作をする必要もない。マウスのカーソルを知りたい言葉に重ねるだけで、そのすぐ横に翻訳された日本語が表示されるので、視点をずらさずに翻訳された言葉が確認できる。とにかく使い勝手が良い。

▶ 和文英訳機能もある

ROBOWORDのユニークな点としては、英文和訳だけでなく、ほかに和文英訳もできることが挙げられる。マウスのカーソルを英語に合わせれば日本語訳が表示され、日本語に重ねれば英語が表示される。英和と和英と両モードの切り替え操作をする必要がなく、スムーズに操作できる。

▶ ウィンドウズのどの部分でも翻訳可能

翻訳ソフトの中にはブラウザの中に表示された文だけしか翻訳できないものがあるが、ROBOWORDは、テキストエディターやワープロなど、ほかのアプリケーションでも使える。それだけでなく、タイトルバーやメッセージボックスなど、従来の翻訳ソフトでは使えないところにある言葉も翻訳できる。ROBOWORDをインストールするだけで、英文和訳、和文英訳が簡単にできるようになる。

▶ 細かな使い勝手を良くするさまざまな機能

ROBOWORDの表示スタイルは大きく分けて、「フローティングウィンドウ」と設定のボタンが並ぶ通常のウィンドウの2通りがある。通常のウィンドウの場合だと、ROBOWORDの位置が固定され、翻訳結果が表示される。フローティングウィンドウの場合、選択した言葉の横に翻訳語がポップアップして表示される。

また、複数の熟語の意味を縦に増やせる。候補が複数示されるので、見やすく有効だ。

さらに、ユーザーによる辞書のカスタマイズ、翻訳の履歴がまとめて見られる履歴機能、翻訳結果のクリップボードへの取り込み、単語からの検索など、さまざまな機能が使える。また、翻訳語のフォントはウィンドウズに組み込まれているフォントならなんでも使える。

▶ 英和辞書のほかにもリリースを予定

標準で付属する辞書は、三省堂のデリリーコンサイスで、インターネット用にとくにカスタマイズされたものではない。実際に使ってみたところ、英単語の場合はあまり問題は感じなかったが、日本語を英訳する場合、思ったとおりに訳してくれないときがあった。たとえば「インターフェイス」にカーソルを指定したら、「インター」としか認識しなかった。場合によっては、単語登録が必要だろう。また、スクリーン上のあらゆる単語にカーソルを重ねただけでそのたびに反応してしまうので、わずらわしく感じるときもあった。「中学3年生レベル」とか、「英検2級レベル」とか、なにが基準を設けてその水準以下のものには反応しないような機能を付ければよかったと思う。

使い勝手の点では群を抜くソフトウェアだけに、以上のような点が気になった。今後のバージョンアップに期待したい。(編集部)

ROBOWORD



有限会社サン・オーク



12,800円



2.02



0722-70-6876



http://www.sanoak.co.jp/
roboword/index.html



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp